

編 集 後 記

本雑誌の編集委員を約1年前に拝命しました。ちょうど新型コロナが国内に拡がってきた時期と一致し、そのおりを受けほとんどの編集委員の皆様方とは委員会として一度も直接お顔を合わせる機会がなく過ぎ、寂しいかぎりです。他の会議もほとんどがWeb会議となり多少慣れていますが、やはり人とのコミュニケーションというのは聴覚からの情報だけでなく、一堂に会している参加者の、リアルタイムの、全体の雰囲気が醸し出す情報を視覚情報として得ている部分がとても多いようで、Web特有の時間差という現象も加わって、双方向の会話がしにくいくことには変わりはありません。一方で、場所を選ばずに参加でき、移動時間も節約できるという恩恵が大きいことも実感しました。いずれにせよ、一日も早く新型コロナが収束し、Web会議の良い面は残しつつ、以前の生活に戻れることを願うばかりです。

さて、編集委員としましてはもう1名の外科系委員である松久委員とともに、新たな外科系の企画として、「各國の小児心臓外科育成システム」、「治療戦略の考え方と成績」、「後進に伝えたい匠の知恵」という特集ないしはシリーズを立ち上げ、今後順次掲載させていただく予定であります。会員、読者の皆様方には、日常診療で悩ましい判断に迫られる疾患に関するテーマであったり、留学中の苦労話であったり、ベテランの先生方からのアドバイスであったり、気軽に興味を持って読んでいただけるのではないかと期待しております。お忙しい診療、研究業務のなか、原稿依頼を快諾していただきました先生方にこの場をお借りし深く感謝申し上げます。

本誌の今後の目標には、とくに英文誌の国際的な認知度を高め、なかなか容易ではありませんが、最終的にはImpact Factorを獲得したいこともあります。それには国外からはもちろんですが、国内からの投稿も欠かせません。是非、英語論文の投稿先の1つとして積極的にご考慮いただけますようお願いいたします。

(櫻井 一)